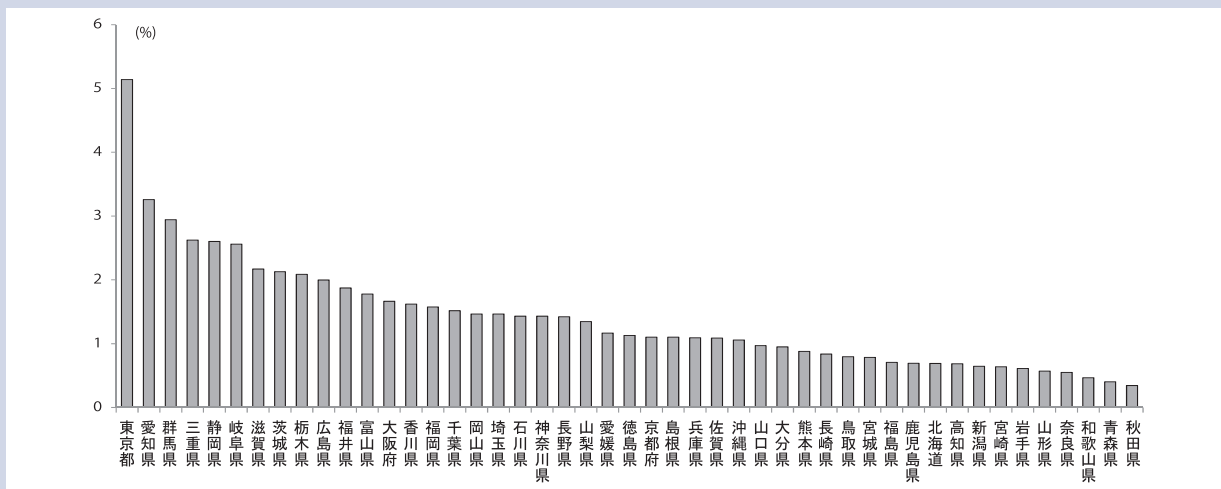


FOCUS・都道府県の統計

増加する外国人労働者数

日本で働く外国人労働者数は128万人と、統計開始以来過去最高を更新しました(2017年10月時点)。外国人労働者が就業者全体に占める比率を都道府県間で比較すると、東京都(5.1%)がトップ、愛知県(3.3%)、群馬県(2.9%)、三重県(2.6%)、静岡県(2.6%)と続いています。東京都の外国人労働者はその4割強が卸小売業、宿泊・飲食サービス業に就いています。続く4県で多いのは製造業就業者で、4県の外国人労働者のうちそれぞれ5割前後が製造業に就業しています。地方のものづくりの現場では、人手不足の中で外国人労働力の活用が進んでいます。

資料 就業者数に占める外国人労働者数の比率



(出所)厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況(2017年10月末)」、総務省「労働力調査」

編集後記

AI、ビッグデータ、IoTといった技術開発のニュースリリースや新商品の発売、サービス開始といったニュースが連日報道されている。以前、こうした技術が開花する21世紀は覚悟が必要な時代だと言ったことがある。これまでの常識や価値観が挑戦を受ける時代だと感じたからだ。

新しい技術は最初はラボベースでの研究から始まるが、様々な商品に応用されるようになるとその技術開発のスピードは当初の想定を大幅に上回るようになる。正にAIやビッグデータはそうしたフェーズに入っているような気がする。私たちが日常何気なく使っている商品、サービスにこうした最新技術が入ってますよと言われずに使われていることが当たり前という時代ということだ。

工業社会から情報社会へ、石油よりソフトウェアへということで今や世界の株式市場を牽引するのは製造業ではなくFAANGに代表されるアメリカ大手IT企業だ。豊富なキャッシュを持ち有望なスタートアップを次々に飲み込みAI、ビッグデータ、自動運転といった新しい技術分野で圧倒的な存在感を持っている。

ただここにきてそうした企業が技術と情報を一手に握ること、開発スピードへの懸念が叫ばれるようになってきた。以前からあった懸念ではあったがこのところSNSを巡る個人情報流出事件や自動運転試験中の死亡事故が報じられて以降規制強化の声が大きくなってきた。科学技術の進歩は人間を幸せにするのか不幸にするのか。古くて新しい問題に悩まなくてはならない。やっぱり進むためには覚悟が必要だ。(H.S)